

## モルモットを用いたMaximization法 による皮膚感作性試験

### 要 約

アクアプロ21Rによる生成水を検体として、Maximization法によりモルモットを用いて皮膚感作性試験を行った。

感作誘導処置として、試験動物10匹に検体を皮内注射し、その翌週に48時間閉鎖貼付した。この試験動物に対して、検体を用いて感作誘発を行った結果、誘発後48及び72時間の各観察時間において試験動物に皮膚反応は観察されなかった。このことから、検体はモルモットにおいて皮膚感作性を有さないものと結論された。

### 依 頼 者

アサヒプリテック株式会社

### 検 体

アクアプロ21Rによる生成水

### 試験実施期間

平成11年8月17日～平成11年11月9日

### 試験実施場所

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所  
東京都多摩市永山6丁目11番10号